Featured Picks

豊田通商株式会社

豊田通商のアフリカ事業について

当社は、1922年に東部アフリカからの綿花輸入を開始して以来、東南部アフリカを中心に事業基盤を築いてきた。2012年に西アフリカに強みを持つフランスのアフリカ専門商社CFAO社へ資本参加、2016年に完全子会社化。グループとして170年以上にわたりアフリカの人々や社会との歩みを進めてきた。

現在は『WITH AFRICA FOR AFRICA』の理念の下、「モビリティ」「グリーンインフラ」「ヘルスケア」「コンシューマー」の4つの事業領域とアフリカ全54ヵ国での事業展開を掛け合わせながら、着実な成長を遂げている。

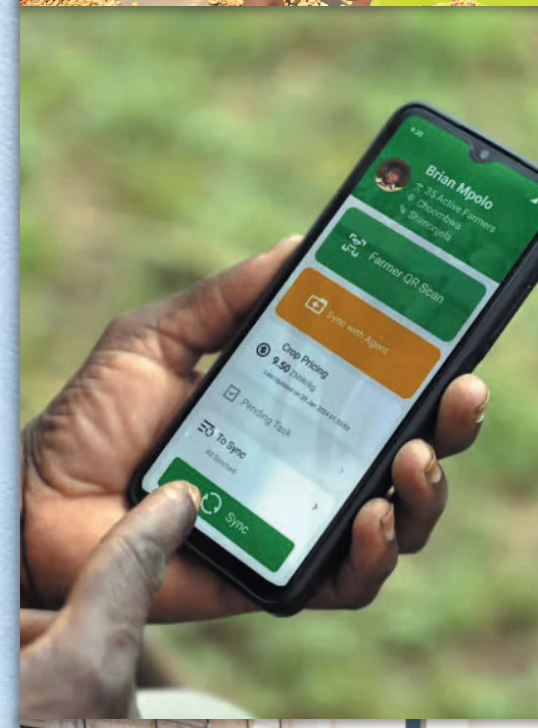
モビリティ分野では、より安全でクリーンな車の供給とともに、マルチパスウェイで脱炭素化にも貢献していく。グリーンインフラ分野では、再エネを中心に電力、港湾、水供給のインフラ開発に注力。エジプトではアフリカ最大の風力発電所の運転を開始した。ヘルスケア分野では、信頼性のある医薬品へのアクセス向上に貢献すべく生産・卸し・小売りの流通ネットワークを構築。ケニア・ウガンダの薬局チェーンGoodlife社を完全子会社化するなど小売りも強化。コンシューマー分野では、Carrefour社とのパートナーシップでモダンリテールの市場形成に注力。また、ユニチャーム社と協業により、生理用ナプキンの現地生産、販売をケニアで開始。地域経済の活性化に貢献している。

本年8月20－22日に開催されたTICAD9では、「グリーンエコノミー」「グローバルヘルス」「人材開発」の3つを重点領域として、アフリカ各国政府や民間企業、国連機関などと計44件のMOU（覚書）を締結した。今後、締結したMOUの具現化をアフリカと共に目指していく。

当社はアフリカの未来の子どもたちのために、現地に根ざした事業の展開を通じて、アフリカの社会課題解決と持続的な経済成長への貢献を加速していく。

三井物産株式会社

アフリカで描く未来図
—農業・食、エネルギー、生活インフラ分野で共創型ビジネスに挑む



当社は、アフリカ地域における持続可能な社会の実現に向け、農業・食料・エネルギー・生活インフラ分野を中心に事業を展開している。2017年には、1967年ケニアにて創業のETC Group（ETG）に出資参画した。ETGは、半世紀以上にわたりアフリカの経済と地域社会を支えてきた企業であり、現在ではサブサハラ地域を中心に30以上の国々で事業を展開、約400万人の農家ネットワークを有している。祖業である農業資材の供給や穀物の輸出入に加え、LPGの配給、食用油の製造・販売、鉄鋼製品の加工・販売など、地域の民生を支えるさまざまな事業を手掛ける。

当社とETGとの協業は多岐にわたる。例えば、カカオやゴマの集荷・輸出分野では、ETGが提供するサステナビリティプログラムを当社が日系企業に紹介し、責任ある調達を支援している。鉄鋼分野では、当社のネットワークを活用して原料をETGに供給し、パイプや屋根材などの加工製品をETGは南部アフリカ地域に展開している。さらに、2021年には綿花（コットン）のサプライチェーンにおけるトレーサビリティを提供する新事業「farmers 360° link」をETGと共同で立ち上げた。消費者はQRコードを通じて農家の情報にアクセスし、肥料支援や教育支援などの還元プログラムを選択することが可能となっている。これにより、農家には公正な利益還元が実現され、消費者にとっても新たな購買体験が提供されるサービスが実現した。

今後もETG社との連携をさらに深め、事業を通じてアフリカの課題解決と地域社会の発展、持続可能な未来の創出に貢献していく。